

芦安小学校後期自己評価書

■学校教育目標

「一人一人の学びを大切にして、「生きる力」を身に付ける芦安っ子」
～かしこい子、がんばる子、やさしい子、きもちがあかるい子～

■評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ. 学校運営・学校経営」、「Ⅱ. 学習指導」、「Ⅲ. 生徒指導」、「Ⅳ. 保護者・地域との連携」、「Ⅴ. 学校の特色ある取組」の5領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童）を行った。質問に対しての回答選択肢は基本的に4段階である。

A：そう思う　　B：ややそう思う　　C：ややそう思わない　　D：そう思わない

このうちAとBは肯定的なプラス評価、CとDは否定的なマイナス評価である。

A・B・C・Dのそれぞれの選択肢を点数化し、A＝4、B＝3、C＝2、D＝1として集計し、回答者数で割って平均点をもとめた。

- ・全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は3点以上になり、4点に近づく。
- ・全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2点以下となり1点に近づく。

教職員数ならびに児童数ともに、少ない中でのアンケートであったが、評価項目の中には、今後も共通理解して取り組む必要があることが明らかになってきている。

■全体評価

アンケート調査の結果から、児童・教職員・保護者あわせ、前期同様ほとんどの項目でプラス評価の傾向となっている。これは、前期に引き続いて芦安小学校の教育活動が、保護者や地域の理解と協力を得ながら、効果あるものとなっておこなわれていることや、児童が充実感と向上心を持って学校生活を送っていることが、全体の傾向として見てとれる。

小規模校の利点を生かし、教職員と児童、児童同士のコミュニケーションは、前期同様、図れている。児童のアンケートの結果を見ても、多くの児童が、「学校は楽しい」（前期評価3.6→後期評価3.6）、「先生は、声をかけてくれたり、話をしてくれる」（前期評価3.7→後期評価3.6）、「授業は楽しい」（前期評価3.4→後期評価3.4）と肯定的な回答をしている。また、「困ったときに相談できる友達がいる」（前期評価3.2→後期評価3.1）についても肯定的な回答であり、児童同士のコミュニケーションについても良好であることがわかる。さらに、教職員の自己評価アンケートにおいても、「児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めている」（前期評価4.0→後期評価3.9）と、前後期とも非常に高い評価であった。児童との良好な関係は、教育の原点であり、非常に大切なことである。今後も、少人数の利点を生かした教育活動と、地域連携を柱とした「芦安郷育」をより一層推進していきたいと考える。

■教職員自己評価

I 学校運営・学校経営

学校運営・学校経営については、すべての項目で前期を大きく上回る高評価である。前期に引き続いて、教職員が一丸となり、学校教育目標達成に向けて、学校経営方針に基づいた多様な取組をPDCAサイクルを意識して実践していることを示していると考えられる。さらに、2. 3. の項目や7. の項目からは、本校の全教職員がチームとなって「協働」する大切さを理解し、職員間の連携を意識しながら、「報・連・相・確」の実践等一人ひとりが取り組んでいることもわかる。今後も、連携・協働を進めることで、より一層の同僚性を高め、学校の活性化を図っていくようにしたい。また、校務分掌についても、前期同様学校運営上、適切に機能しているといえる。危機管理については、引き続き大きな災害等の危険性も高い地域なので、危機管理マニュアルなどを用いて、取り組んでいく必要性を感じている。

II 学習指導

学習指導についても、すべての項目で、前期を上回る高い評価である。学力向上については、さらに大きな課題となってきている。本校においては、10. の授業のめあてを示すことや、11. の基礎基本の確実な定着については、後期は全教職員がそうしていると回答し、山梨スタンダードを前期以上に意識した授業づくりへ取り組んでいることがわかる。また、14. の家庭学習についても、前期に引き続いて授業内容と結び付け、授業内容の定着を図ろうと取り組んでいることが示された。前期において、12. 言語活動を効果的に取り入れた指導や13. の児童が目標を達成しているかを確かめる「振り返り」の過程を設けていることへの評価が、高いとはいえ、他に比べると低めであったが、ホワイトボードを取り入れた話し合い、発表等の言語活動の充実や振り返りの過程を、教職員が意識的に多く取り入れ、工夫をしたことで、評価も非常に高くなっている。今後も、さらにできる授業・わかる授業を実践し、校内研のテーマである「自己表現ができる児童の育成」につなげていきたい。

III 生徒指導

生徒指導においても、前期以上に、すべての項目で高い評価である。15～18. の項目は、全教職員が、そうしていると回答し、前期以上に、児童一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしながら児童理解、共感的理解に努めていること、いじめや不登校等の問題行動に対しても早期発見・早期対応を行っていることがわかる。また、基本的習慣の確立や、学級活動や児童会活動等自主的・自発的な活動を促し、学校や学級が心の居場所となるような指導も、十分に心がけていることが示されている。19. 道徳の時間における評価も前期より高くなり、道徳の時間における話し合いや、自分への振り返りを工夫して指導していることが伺える。今後も、自分自身に関することを重点的に、道徳の時間の充実に努めていきたい。

IV 保護者・地域との連携

保護者・地域との連携においても、どの項目も高い評価である。20. 21. の

情報提供や情報公開、情報収集については、前期同様、特に評価が高く、教職員が意欲的に、学級通信等を作成し、情報を発信していることがわかる。また、保護者や地域の願いや要望を聞く機会も工夫し、情報収集にも努めている。さらに、23.における児童の安全確保や、他と比較すると前期は低めだった、22.のPTA活動の推進についても、後期については評価も高くなり、意欲的に関わられるような様々な工夫をしていることがわかる。

V 学校の特色ある取組

学校の特色ある取組においても、ほとんどの項目で満点に近い、高い評価である。小中9年間を見通した英会話教育の推進や、ユネスコクール加盟校として、自然体験やESDへの取り組みを意識して、後期も進めてきていることがうかがえる。また、朝活動での一輪車等の指導が、基礎体力と運動能力の向上につながっているという意見もある。29.の校舎の安全管理や保健指導についても、担当を中心に適切な指導や管理がされている結果である。30.の図書館教育・読書活動については、朝読書の時間や読み聞かせをするなど、子どもたちの読書への興味関心をもたせる工夫をこらしている。28.給食指導・食に関する指導は、栄養教諭との連携を探るなど、さらなる工夫をしていきたいと考える。

■児童アンケートの結果

I 学校全般について

学校生活全般については、どの項目も高い結果であるといえる。1.の学校は楽しいか、2.仲良く遊ぶ友達がいるか、4.の先生との関係については、前期同様、とても高い評価であり、ほぼ良好な状態であるといえる。3.の「困ったときに相談ができる友達がありますか。」という質問に対して、評価も3.2→3.1となっている。昨年度同期と同じで高い評価ではあるが、児童同士のつながりである「絆づくり」がより一層広げ、深められるように、各学級における学級活動や日常的な休み時間の遊び、さらには運動会などの大きな行事等への取組を通して、子供同士の「絆づくり」を支援していきたいと思う。3学期においても、これらを継続し、一人ひとりに対して、よりきめ細かな指導に力を入れていきたいと考える。

II 授業について

授業についても、前期と同様、すべての項目で高い結果である。ほとんどの児童が授業については肯定的な回答をしているが、各項目とも、数名は課題をもっている現状もある。3学期も、個に応じた指導方法の工夫・改善に今まで以上に努め、基礎・基本を確実に定着させることに取り組んでいきたい。さらに、「体験的な学習」や「言語活動を重視した学習」を意識した授業改善を行うことで、「わかる」・「できる」といった学習場面が多くなるようにしたいと考える。9.の宿題への取組についても、前期に比べて評価が下がっているが、ほとんどの児童が一生懸命に取り組んでいると回答している。これからも児童の実態に即した家庭学習の一層の推進を図りたい。

Ⅲ 基本的な生活について

基本的な生活についても、前期と同様に、すべての項目で高い評価である。10. あいさつと14. 清掃活動の項目は特に評価が高く、こころよくあいさつすることや清掃活動を頑張っていると回答している。また、11. の時間を守る、12. の当番や係活動、14. のきまりや約束事についても、多くの児童がよく守れている、守れていると回答している。しかし1, 2名の児童が時間やきまりをあまり守れていないと回答している。3学期も、児童会活動や学級活動において、集団の目標やきまりを設定し、相互に協力し合ってよりよい人間関係を築き、充実した学校生活が実現できるよう集団活動を進めていきたい。

Ⅳ 家での生活

家庭での生活についても、前期と同じように、どの項目も高い評価である。18. 家庭学習については、他と比較すると評価が低めであり、前期よりも下がっている。学力向上には、家庭学習の習慣化が大切であることを、今まで以上に自覚させていきたい。そのためにも、宿題は不可欠であり、継続して指導していきたいと考える。また、宿題以外の家庭学習においても、家庭と連携し、協力をお願いしていきたい。19. 20. の携帯、スマホに関する質問に対しては、キッズ携帯も含めてではあるが、約3割9名の児童が持っていると回答している。これからも、家でのルールの決め方や使い方についても情報提供を増やしていきたいと考える。

■保護者アンケートの結果

I 学校全般について

学校生活全般については、どの項目も高い結果であるといえる。1. の学校は楽しいか、2. 仲の良い友達がいるか、7. の学校行事について、8. 安心安全な教育環境を整えているか、9. 学校施設・設備については、特に高い評価であり、ほぼ良好な状態であるといえる。しかし、3. の「困ったときに相談ができる友達がありますか。」という質問に対して、4名の保護者があまりいない、いないと回答している。3学期においても、学級活動や日常的な休み時間の遊び、さらには行事等への取組を通して、子供同士・児童と教職員の「絆づくり」をさらにすすめ、継続して行うことで、よりきめ細かな指導に力を入れていきたいと考える。また、危機管理については、これからも安全点検や防災訓練等を定期的に行うなど、危機管理マニュアルなどを用いて、今以上に取り組んでいきたいと考えている。

II 授業について

授業についても、すべての項目で高い結果である。10. の授業の内容がわかっているか、11. の基礎的な学力が身につく指導に努めているか、12. 宿題を忘れずにしているかという質問に対しても、20家庭中ほとんどの家庭が、よくわかっている、わかっている、忘れずにしているという評価である。個に応じた指導方法の工夫・改善に今まで以上に努め、基礎・基本を確実に定着させることに取り組んでいきたい。さらに、「体験的な学習」や「言語活動を重視した学習」を意識し

た授業改善を行うことで、「わかる」・「できる」といった学習場面が多くなるようにしたいと考える。また、家庭学習においても、より児童の実態に即した上で、取り組んでいきたい。

Ⅲ 保護者・地域連携について

保護者・地域連携においても、すべての項目で、とても高い評価である。特に、13. 学校からの情報提供や情報公開については、全家庭が情報提供・公開を行っているという回答していることから、学級通信やホームページ等で情報を発信していることがわかる。また、14. 15. の項目においても、保護者や地域の願いや要望を聞く機会も工夫し、情報収集にも努めていることや、PTA活動のより良い推進のために、各家庭において、意欲的に関わるよう努めている様子も伺うことができる。3学期においても、より一層の情報提供や公開をすすめ、保護者や地域との連携を深めていきたいと考える。

Ⅳ 家での生活について

家での生活について、16. 基本的な生活習慣の指導や16. 子供との会話の時間、20. 朝ごはん等、各家庭で積極的に取り組んでいるため、高い評価となっている。18. 宿題以外の家庭学習については、各学年の現状や児童の実態に即して、家庭と協力しながら考えていきたい。19. 家族で一緒に本を読む時間については、少しずつでも取り組めるよう工夫をしていきたいと考える。

■<これからの重点課題>

①本校の利点を生かした基礎的・基本的な学習指導や表現・コミュニケーション能力の育成（英会話科の活動）を視野に入れ、豊かな学校生活の推進をはかる。

児童アンケートの結果から、「授業が楽しい」（前期評価3.4→後期評価3.4）、「授業がわかる」（前期評価3.7→後期評価3.4）と前期同様、高い評価であった。これは、校内研究のテーマ「生き生きと自己表現ができる児童の育成～コミュニケーション能力を高める、小中一貫型をめざした英会話科授業の実践～」を中心に、児童一人ひとりに対する、「きめ細かな指導」や「コミュニケーション能力の育成」を図ってきた成果と考えられる。今後も、少人数教育という本校の利点を生かし、今以上に個々の児童のニーズを把握し、それに沿った学習指導の方法を工夫して進めることで、より一層、基礎的・基本的な学習内容の定着をはかっていきたい。また、これまで同様、児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めることで、児童との良好な関係を築き、豊かな学校生活の推進を図っていきたい。

②「芦安郷育」を中心とした、豊かな体験活動の充実・展開をより推進し、「小中一貫校」に向けた柱の一つとして、学習プログラムを組み、柔軟に教育課程に位置づけていく。

教職員アンケートの「V. 学校の特色ある取組」においても、前期同様、すべて

の項目で高い評価であった。小中9年間を見通した英会話教育の推進や、ユネスコクール加盟校として、自然体験やE S Dへの取り組みを意識した「芦安郷育プログラム」を中心に、豊かな学習・体験活動が進められていることがうかがえる。

これからも、学校教育目標を見据え、児童の実態を分析し、しっかりとした総括をする中で、芦安小学校の学校デザインを特色づけている「芦安郷育」の推進をはかっていく。一方で、「芦安郷育プログラム」については、学校行事の精選を図りながら、学習プログラムを組み、柔軟に教育課程に位置づけていく。

小中9年間で芦安のよさを認識し、芦安を語り、他に発信できるグローバルな児童生徒を育成するため、これまでの実践（財産）を継続するとともに、英会話科中心に新たな展開を目指す積極的な提案・チャレンジを推進する。

③学校の教育理念や地域の思いや願いなどをともに話し合い共有し、地域の子供たちを心豊かで逞しく育てる地域（社会）に開かれた学校となるために、地域や家庭との連携をさらに深めていく。

これからも地域の人々とふれ合うことで豊かな感性や実践力を、より一層はぐくんでいきたい。さらには、家庭との連携もより一層深め、家庭学習についても、家庭での子供との会話の中で話題にしてもらうよう保護者に働きかけたいと考える。今後も、学校だよりや学年だよりなどで学校の取組を保護者や地域に知ってもらうようにしていきたいと考える。